

啾啄同機



大阪市立榎本小学校

9月7日

NO、18

子ども叱る時

『ほめて育てることが大事です。』

よく聞く言葉です。そのこと自体を否定するつもりはありません。人は間違えます。子どもである小学生ならなおのこと間違えるものです。やってはいけないことをしてしまうこともあります。そんな時は、毅然と叱る必要があります。

叱るのは難しいものです。誰だって叱られるのはうれしくありません。子どもだって同じです。だから気を使わないといけません。

「褒めるのは人前で、叱るのは見えないところで。」

先輩の先生に教えていただきました。クラスに関わることで、全員に知らせないといけないことは以外は、見えないところで叱るのが原則です。

「怒らずに叱りなさい。」

これも先輩に教えていただきました。感情的になってはいけないということです。本気で子どもにぶつからないといけない場面もあるでしょう。アンガーマネジメント研修で怒りのピークは6秒と教えていただきました。研修後は、6まで数えてから子どもを叱っていました。

「前の話は持ち出さない。」

叱るのは、今が原則です。以前のことまで持ち出すと言い訳をします。そうすると、目の前の過ちの反省さえも薄れてしまいます。

井村雅代氏はアーティスティックスイミングの有名なコーチです。叱る姿がマスコミに多く取り上げられて、怖いコーチとして有名になりました。その指導のおかげで氏がコーチをしたチームはオリンピックで多くのメダルを獲得しています。

井村氏は、3つの叱るポイントを教えてくれています。

今、目の前のことで叱ること。

しつこく叱らないこと

本気で叱ること

の3つです。

叱るだけではだめで「どうすればいいのかを示すこと」が大切だと言います。相手のことを信じて、解決するまで徹底的に付き合う。叱るとは、相手の可能性を信じることです、と言います。

